

UTSUNOMIYA UNIVERSITY

宇都宮大学大学院 教職大学院案内

教育学研究科 教育実践高度化専攻

確かな指導理論と優れた
実践力・応用力を育むために

DIVISION OF
PROFESSIONAL
TEACHER
EDUCATION
2015 GUIDE

1 教職大学院とは？

学校現場の教育課題を研究する大学院

学校現場の教育活動を課題とし、学校現場と大学を行き来しながら実践研究を進めます。そこでの研究成果を学校現場や地域に還元しながら教員としての資質・能力の向上を目指す、実践指向型の大学院です。宇都宮大学では、平成27年4月に開設する新しい大学院です。



2 宇都宮大学 教職大学院の特徴

1 3つの力を育成します

本教職大学院では、学校改革・授業改善のリーダーとなるべき人材を育成します。そのために、現職院生も学卒院生も、それぞれに次のような力を獲得することができます。



学校改革力

「学校改革力」とは、学校改革のため学校課題を見極め、その解決を推進する力量や、学校内外と協働して課題解決に取り組む力量などで構成されます。

授業力

「授業力」は、授業研究を組織し、リードできる力量や、すべての学習者の深い学びを保障することのできる力量などで構成されます。

個への対応力

「個への対応力」とは、個に応じる特別支援教育の考え方を学習指導や学級・学校経営に生かす力量であり、学校改革力、授業力を下支えする力となります。

2 学校現場に密着した実践研究を進めます

本教職大学院の中核は、「教育実践プロジェクト」です。大学院生と大学教員が1つのチームとなり、地域の協力校もしくは在籍校のテーマを自らの研究課題として取り上げ、学校現場と連携しながら課題解決を進めることで、学校現場に生きる実践力を身に付けます。現職院生は、2年間同じ学校で行うことで、より深い課題解決を目指します。テーマの例を以下に掲げます。

1年次の学卒院生は、附属学校で長期インターンシップを行います。2年次は現職院生と一緒にプロジェクトに参加します。

学校改革力

- 学級の集団作り
- 学校評価の開発や分析
- キャリア教育等の活性化
- 学校と地域・家庭の連携
- 小中の連携の活性化

授業力

- 校内研修の活性化
- 授業研究のファシリテーション
- 特定教科の活性化
- ICTの活用

個への対応力

- 授業における個のとらえ方と対応
- 特別支援教育コーディネーターの活性化
- 特別な支援が必要な子どもへの理解と対応

3 最新の理論や指導方法を幅広く学べます

共通科目は、現代的な教育課題とその課題に直結する教育理論と実践的なアプローチを網羅的に学びます。

選択科目(分野別選択科目)は、大学院生の関

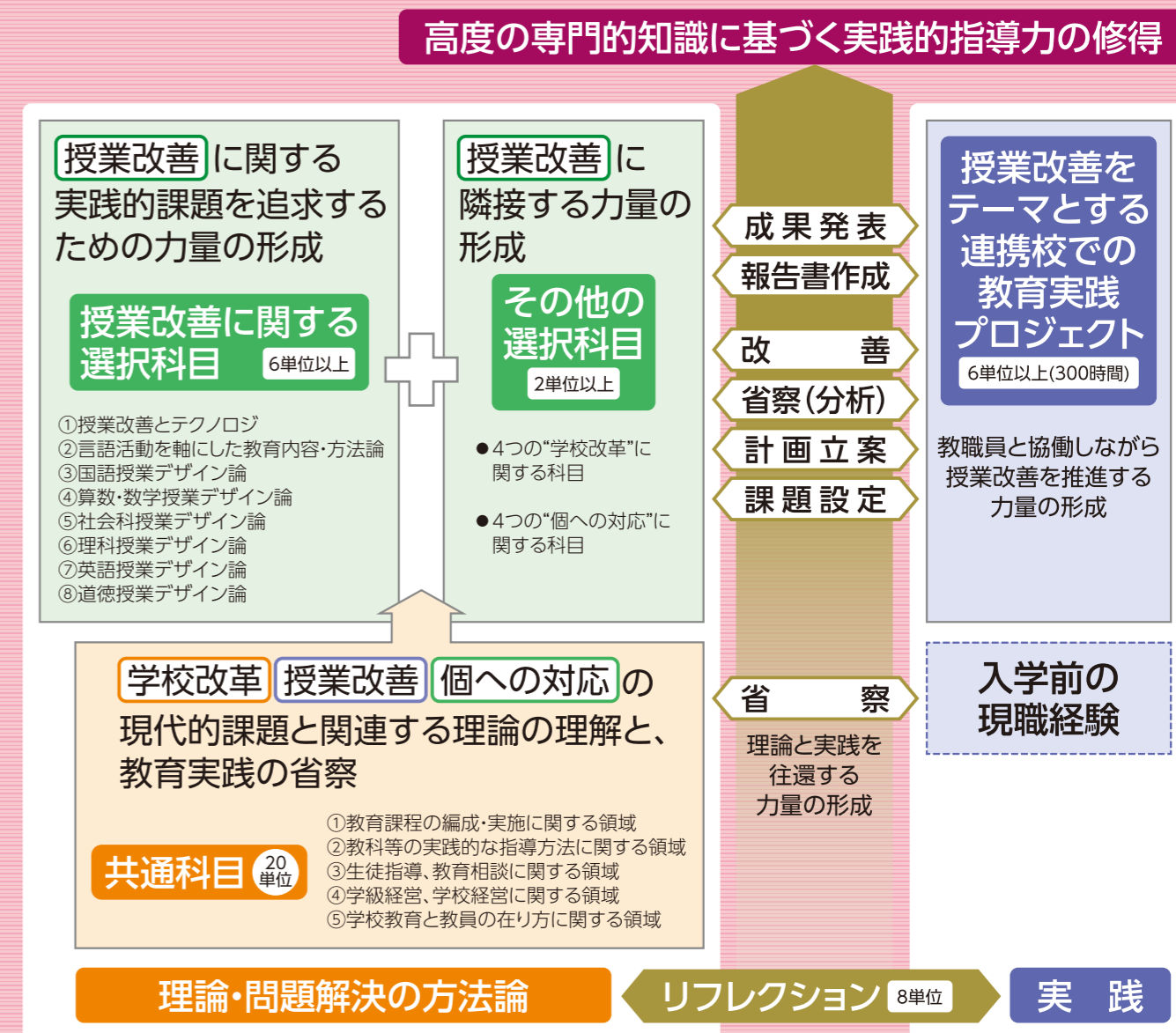
心に応じて受講します。現職院生は個人の関心に応じて、3つの科目群(学校改革、授業改善、個に応じた支援)から、1つの科目群を選択し、その群を中心に履修します。学卒院生は、3つの科目群の基礎をバランスよく学びます。

4 理論と実践をていねいに つないでいきます

教育理論と学校現場での活動(これまでの実践や教育実践プロジェクト)をつなぐための科目

「リフレクション」を設定しています。年間を通して、現場での活動を省察し、次の活動に生かすことを繰り返す、その成果を実践報告書としてまとめます(修士論文は作成しません)。

*「授業力」を自ら伸長すべき能力として設定した現職院生のカリキュラムイメージです。



授業科目と履修方法

1 3つの力を育てる授業科目

3つの力を育成するために、共通科目、分野別選択科目、教育実践プロジェクト、リフレクション、を設定します。必要修得単位数は46単位です。それぞれの指導は、研究者だけでなく実務家教員(教員経験者)と一緒に指導を行います。



共通科目 必修：20単位	
授業科目	
1	教育課程の編成・実施に関する領域
①	カリキュラム開発の実践と課題
②	個に応じた指導の実践と評価
2	教科等の実践的な指導方法に関する領域
③	教材開発と教育方法の実践と課題
④	授業研究の運営と課題
3	生徒指導、教育相談に関する領域
⑤	生徒指導の実践と課題
⑥	特別支援教育の実践と課題
4	学級経営、学校経営に関する領域
⑦	学校改革の理論と実践
⑧	学級経営の実践と課題
5	学校教育と教員の在り方に関する領域
⑨	学校教育をめぐる現代的な社会状況とその対処
⑩	現代教師論

分野別選択科目 選択：8単位以上	
授業科目	
1	学校改革に関する科目群
①	集団作り論 ※
②	学校評価の開発実践
③	キャリア教育の実践と課題
④	学校と地域の連携に関する実践と課題
⑤	学校における「管理」実践とその課題
3	個に応じた支援に関する科目群
①	授業における個のとりえ方と対応 ※
②	特別支援教育コーディネーターの役割と課題
③	特別な支援が必要な子どもへの理解と対応
④	障害の重い子どもへの教育の在り方
2	授業改善
①	授業実践基礎 ※
②	授業改善とテクノロジー
③	言語活動を軸にした教育内容・方法論
④	国語授業デザイン論
⑤	算数・数学授業デザイン論
⑥	社会科授業デザイン論
⑦	理科授業デザイン論
⑧	英語授業デザイン論
⑨	道徳授業デザイン論

●現職院生は、選択した科目群から6単位以上を履修
●学卒院生は、※科目を必ず履修

実習科目 必修：10単位(5単位×2、計300時間以上)	
授業科目	
●教育実践プロジェクトⅠ・ⅡA：ⅡB [Ⅰ・ⅡA：現職院生用、ⅡB：学卒院生2年次]	
●長期インターンシップ[学卒院生1年次]	

リフレクション 必修：8単位(通年4単位×2)	
授業科目	
●リフレクションⅠ・Ⅱ 教育実践プロジェクトの計画、省察、報告書作成等の実施	

※()内は単位数

※()内は単位数

2 履修スケジュールと時間割例

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	共通科目							分野別選択科目				
	分野別選択科目						実習科目(週2日程度・150時間)					
	リフレクション(活動計画、活動の分析・考察、報告書の執筆)											
	共通科目							分野別選択科目				
2年次	共通科目							分野別選択科目				
	分野別選択科目						実習科目(週2日程度・150時間)					
	リフレクション(活動計画、活動の分析・考察、報告書の執筆)											
	共通科目							分野別選択科目				

●教育実践プロジェクトは9月から12月を予定しておりますが、その他の期間も協力校とゆるやかに連携します。

		月	火	水	木	金
前期	1限	共通(1)	共通(1)	共通(3)	選択2	
	2限	共通(2)	共通(2)	共通(4)		選択4
	3限	共通(3)		選択1	選択3	リフレクション
	4限	共通(4)				リフレクション
後期	1限		プロジェクト		プロジェクト	選択5
	2限		プロジェクト		プロジェクト	
	3限					リフレクション
	4限			プロジェクト		リフレクション

※現職院生の1年次の時間割例です。



4 教職大学院の メリット

現職院生にとって 優れた実践力・応用力を 備えることができます。

教職大学院は、長期にわたり学校現場と密接に関わることで、自らの活動を最新の指導理論から省察することで、現代的な実践力・応用力が身に付きます。また、大学の講義では、教育実践のみならず、学校経営の視点を身に付けることができます。修了後は、理論と実践が融合し、学校や地域のリーダーとなって活躍することが期待できます。

学卒院生にとって 実践的な指導力・展開力を 備えることができます。

学部の教育実習で学んだことを教職大学院の長期インターンシップでさらに深め、学校現場ですぐに生かすことのできる実践的な指導力や授業の展開力を十分に身に付けることができます。また、現職教員と共に活動することで、幅広い年代と協働する力を身に付けることができます。

学校現場にとって 学校の課題解決への手が かりを得ることができます。

大学院生が、学校の課題を一緒に考え、また、大学教員も、実習と密接に関わりながら、学校に協力することにより、さまざまな視点からの検討や実践が可能になります。実習を通じた関わりだけでは十分な成果に結び付かないかもしれませんが、課題解決への手がかりを得ることに協力できます。また、実習が修了した連携校に対しても、必要であれば大学のサポートを継続します。

5 募集概要

1 求める学生像

入学者の選抜にあたっては、地域や学校における指導的役割を果たし得る教員等として不可欠な確かな指導理論と優れた実践力・応用力を備えたスクール・リーダーになることを志向する現職教員や、学部段階での資質能力を修得した者(教員免許保有者)の中から、さらにより実践的な指導力・展開力を備え、新しい学校づくりの有力な一員となり得る教員を志向する者を選抜するものとする。

2 募集人数と選抜方法


① 募集人数 15名(学部卒者5名程度・現職教員10名程度)	
② 選抜方法	
受験者の区分	検査科目と配点
学部卒者 4年制大学を卒業もしくは3月末までに卒業見込みで、 教員免許状を取得もしくは3月末までに取得見込みの者	【小論文：200点】と【口述試験：200点】
現職教員 現職教員(6年から20年程度の経験を有すること) 県教育委員会派遣現職教員等	【口述試験(「教育実践概要」の審査を含む)：400点】

* 選抜方法や募集日程の詳細は、宇都宮大学大学院教育学研究科 教育実践高度課専攻 学生募集要項をご覧ください。

3 学費


⑦ 入学金 282,000円	栃木県教育委員会派遣の方は入学金の半額を免除します
⑧ 授業料 535,800円(年額)	

6 指導体制 (含む指導教員)



専任教授 青柳 宏
専門分野 教育学、教育方法学

「授業」を創造するためには「対話」が必要です。また、「授業」を反省するためにも、「教育課程」を創造するためにも、「対話」が必要です。大学院での「学び」を一人一人が語り合う「本場の対話」の場にしたいと思っています。




専任教授 久保田善彦
専門分野 教育工学・理科教育

“感じて・考えて・試して・納得”の授業を目指しています。すべての学習者が深い学びに到達できるように、子どもの学びを捉え、その成果を教材やカリキュラム開発に生かしていきます。授業改善のために、協調学習やICT機器等の導入も検討します。




専任講師 司城紀代美
専門分野 特別支援教育・発達臨床心理学

専門は特別支援教育で、エピソードや教室談話といった質的なデータから子どもたちの姿をとらえる研究を進めています。多様な子どもたちがともに学ぶための授業づくり、学級づくりについて皆さんと一緒に探求していきたいと思っています。




専任教授 松本 敏
専門分野 社会科教育・授業研究

環境教育や法教育など、公的分野の教育内容・方法を研究するとともに、児童生徒の学びの丁寧な観察から考える授業研究を進めています。そこから教師の同僚性を高めて学校改革につなげる道筋を現場と共に考えたいと思っています。



専任准教授 和井内良樹
専門分野 道徳教育学

小学校教員として道徳授業研究に長年取り組んできました。道徳教科化が叫ばれる中、改めて道徳教育を研究する意義は大きいと思います。子どもの心を豊かに育む道徳授業の魅力や指導法などについて考えていきたいと思います。



専任教授 渡辺 浩行
専門分野 英語教育・授業分析


「できる」「わかる」だけでなく「分かち合う」ことをめざした授業作り、そのための授業分析を行います。「教師の働きかけ」「児童・生徒の反応」「反応への教師の返し」がどのよう授業を生むことになるか。一緒に考えましょう。

県内の実務家教員 採用予定

生徒指導、**国語教育**


県内の実務家教員 採用予定

学校経営学、**カリキュラム学**




専任講師 鈴木 智喜
専門分野 体育科教育・学級経営

わかる楽しさやできる喜びが実感できる授業を目指して、子どもたちの自主性を生かした授業展開や効果的な発問を考えるなど、試行錯誤しながら実践に努めています。一人一人の能力を最大限に発揮させる指導法と一緒に考えていきたいと思います。




専任准教授 原田 浩司
専門分野 特別支援教育、発達障害、学校経営

発達障害を含む配慮すべき子どもたちの理解と対応が喫緊の課題になっています。これからの学校教育は共に学び育ち合う豊かな関係を築いていくことが求められているのです。実践と省察を往還しながら21世紀型の改革モデルを模索していきましょう。




専任教授 人見 久城
専門分野 理科教育学、カリキュラム開発

社会や時代の変化に対応した理科とはどのようなものでしょうか。理科の授業づくり、授業分析、教育課程の編成などに関心があります。理科の教師とは何を身に付け、何ができるようにすればよいのかを探りたいと思っています。




専任教授 日野 圭子
専門分野 数学教育学

算数・数学の授業における子どもの数学的意味の構成の過程に関心を持っています。子どもが持っている素朴ながらも豊かな知識やアイデアを生かしつつ、それをどう刺激し高めて行ったらよいか、先生方と一緒に考えていきたいと思います。




専任講師 平塚 昭仁
専門分野 体育科教育・学級経営

学校現場で実践を重ねてきました。今、学校現場には様々な子供がいます。目の前の子供とどう向き合うか、実践を通して考えたいです。また、理論と実践が伴う教師としての力量を高めていければと思っています。




専任教授 藤井佐知子
専門分野 教育行政学・比較教育

子どもと教師が共に成長できる学校、公教育のあり方を制度・行政の観点から探究してきました。教職大学院では、学校や社会の現実を鋭く見据え、教育の質保証という今日的課題を皆さんと一緒に考えていきたいと思います。




兼任准教授 上原 秀一
専門分野 道徳教育、教育哲学、比較教育学

小中学校の道徳授業の現状に重大な関心を持っています。子どもにとって切実な道徳問題とはどのようなものなのでしょうか、その問題を子どもが本気で考えるようになるために教師は何をしたらよいのでしょうか、一緒に考えていきたいと思います。




兼任准教授 岡澤 慎一
専門分野 障害児心理学、重複障害教育、特別支援教育

様々な条件や困難を抱えながら生活する人との係わり合いにおいて生じる障害状況からの立ち直りを目指した実践研究(Action research)を行っています。「教育」のあり方を、みなさんと一緒に根本から問い直し、語り合えることを楽しみにしています。




兼任教授 瓦井 千尋
専門分野 教育方法、教育行政、学校経営

教職大学院は、学校現場における様々な課題に適切に対応できる、柔軟で幅広い実践力と高い専門性を備えた中核的リーダーを育成することが期待されています。学校現場15年と教育行政23年の経験を踏まえ、皆様の実践研究をお手伝いいたします。




兼任准教授 小原 一馬
専門分野 教育社会学

学校には様々な社会の矛盾が押し込まれています。そうした矛盾をひとつひとつ切り分けていくことで、できることとできないことをはっきりさせていきたいと思います。学校における問題を、社会の問題として捉えなおすことが課題です。



兼任教授 廣瀬 隆人
専門分野 成人教育学

学校と家庭・地域の連携を中心に探究していきます。校内研修、教員の資質向上、各種の研修、PTA、学校支援ボランティアなどは全て成人教育の場です。成人教育学の視点から学校を再検討しましょう。



兼任准教授 丸山 剛史
専門分野 学校教育学・教育課程論

授業科目「学級経営の実践と課題」を、教職経験豊かな先生と共同で開講します。事例研究と討議を中心に学級経営の意義、歴史的背景、現状、論点、課題を学びます。そして、学級経営問題解決への見通しをもてるようにします。

教職大学院へのアクセス

☆峰キャンパス(JR宇都宮駅から2.2km)

JRバス

(祖母井、茂木、清原台団地、清原球場、ベルモール行など)
JR宇都宮駅西口バス乗場③から乗車。約15分。「宇大前」下車

東野バス

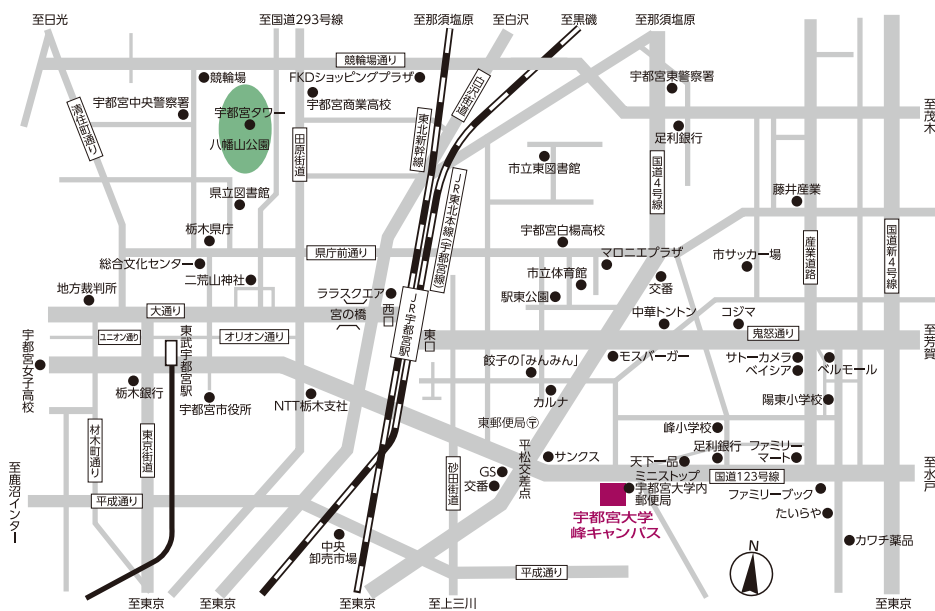
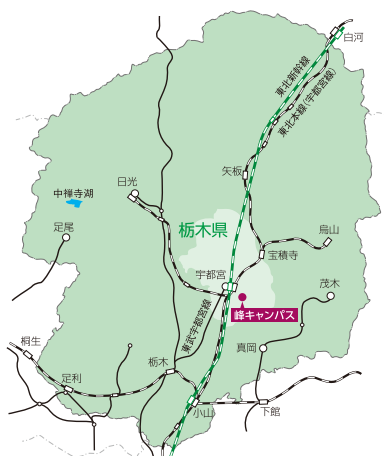
(真岡、益子、海星学院、清原球場、ベルモール行など)
JR宇都宮駅西口バス乗場④から乗車。約15分。「宇大前」下車
東武宇都宮駅バス乗場から乗車。約25分。「宇大前」下車

関東バス

(宇大循環バス左回り)
JR宇都宮駅東口③から乗車。約10分。「宇都宮大学前」下車

タクシー

JR宇都宮駅東口から乗車。約5分。
東武宇都宮駅西口から乗車。約15分。



宇都宮大学 教育学部

〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350

TEL.028-649-5242 総務係